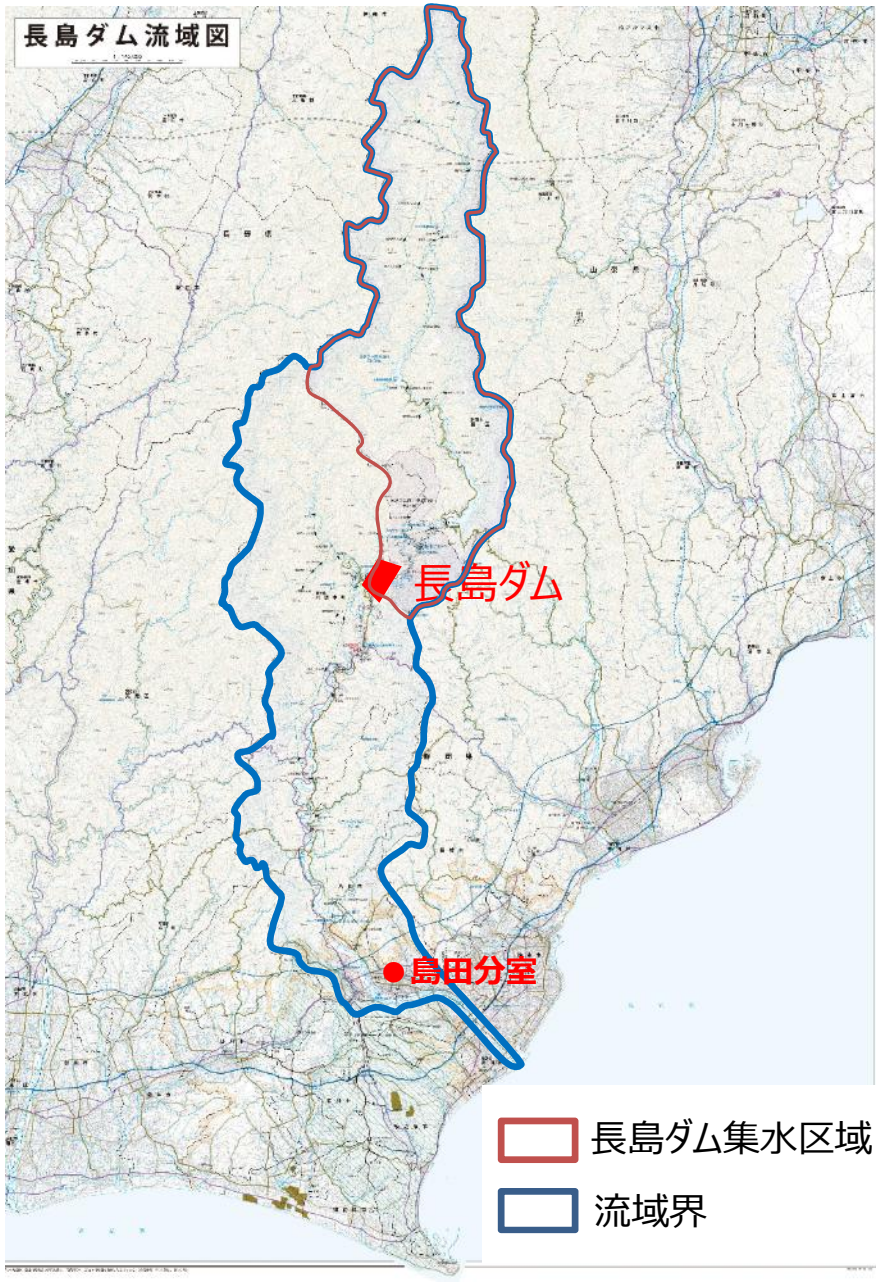
NAGASHIMA

令和７年度　長島ダム事業概要等について

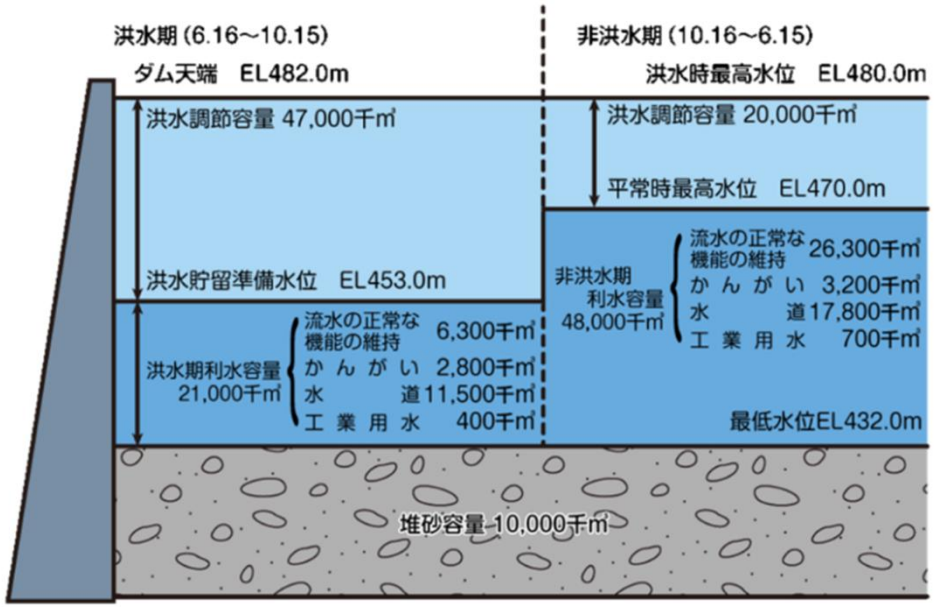
長島ダムの概要



長島ダムは、一級河川大井川水系大井川の上流、静岡県榛原郡川根本町に位置する、高さ109m、長さ308m、総貯水容量7,800万m3の重力式コンクリートダムです。

平成14年より管理を開始し、洪水調節、流水の正常な機能の維持、水道用水・かんがい用水・工業用水の供給を目的としています。

「地域に開かれたダム」として、ダム堤体内部やダム湖面の一般開放など、地域活性化の取り組みも行っています。



ダム貯水池諸元

令和７年度の事業

（単位：百万円）

区分	R6			R7	
	当初	災害復旧	補正予算	当初	災害復旧
長島ダム事業費	堰堤維持 657 堰堤改良 214 計 871	0	堰堤維持 205 総流対 20 計 225	堰堤維持 638 堰堤改良 235 計 873	0

※数字は事業費ベース（業務取扱費を除く）

令和７年度の主な工事

①長島ダム維持修繕工事（流木処理、除草など）
②長島ダム堆砂掘削工事
③長島ダム電気通信設備整備工事
④長島ダム主放流設備修繕工事

令和７年度の主な業務

①長島ダム流入予測システム検討業務
②長島ダム貯水池測量業務
③長島ダム水辺現地調査業務
④長島ダム水質監視分析業務

令和７年度の主要な事業（工事）

■長島ダム堆砂掘削工事

ダム湖に土砂が貯まると、ダムの機能が維持できなくなる恐れがあります。このため、長島ダムでは毎年ダム湖内の測量を行い、堆砂状況を把握するとともに、貯砂ダム上流で流入土砂を捕捉し、堆砂掘削を実施しています。令和７年度は約2.5万m3の堆砂掘削を実施します。

（令和６年度末堆砂状況）
・全堆砂量　５,０７６千m3
・堆砂率　　５．９％

堆砂掘削工事の様子

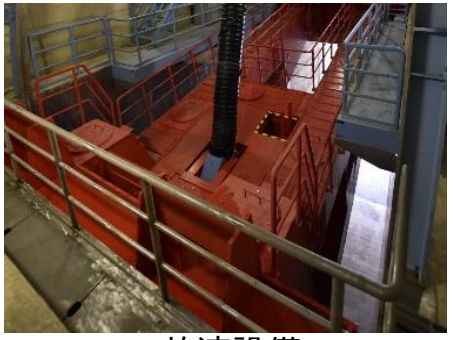
■長島ダム電気通信設備整備工事

長島ダムでは放流に伴い周辺住民に注意を喚起するため、河川表示板を設置しています。河川表示板の老朽化に伴い更新工事を実施します。

河川表示板

■長島ダム主放流設備修繕工事

ダムには洪水調節を行う放流設備が設置されており、これらの設備はダムの重要な施設です。施設の老朽化に伴い主放流設備の修繕を行います。


放流設備

これまでの防災操作

長島ダムでは、平成14年の管理開始以降、令和7年3月までに防災操作（流入量900m3/s以上）を計11回実施しています。
平成30年10月1日の台風24号による洪水では、過去最大となる最大流入量2,079m3/s、ダム放流量961m3/s（最大流入時）を記録しました。

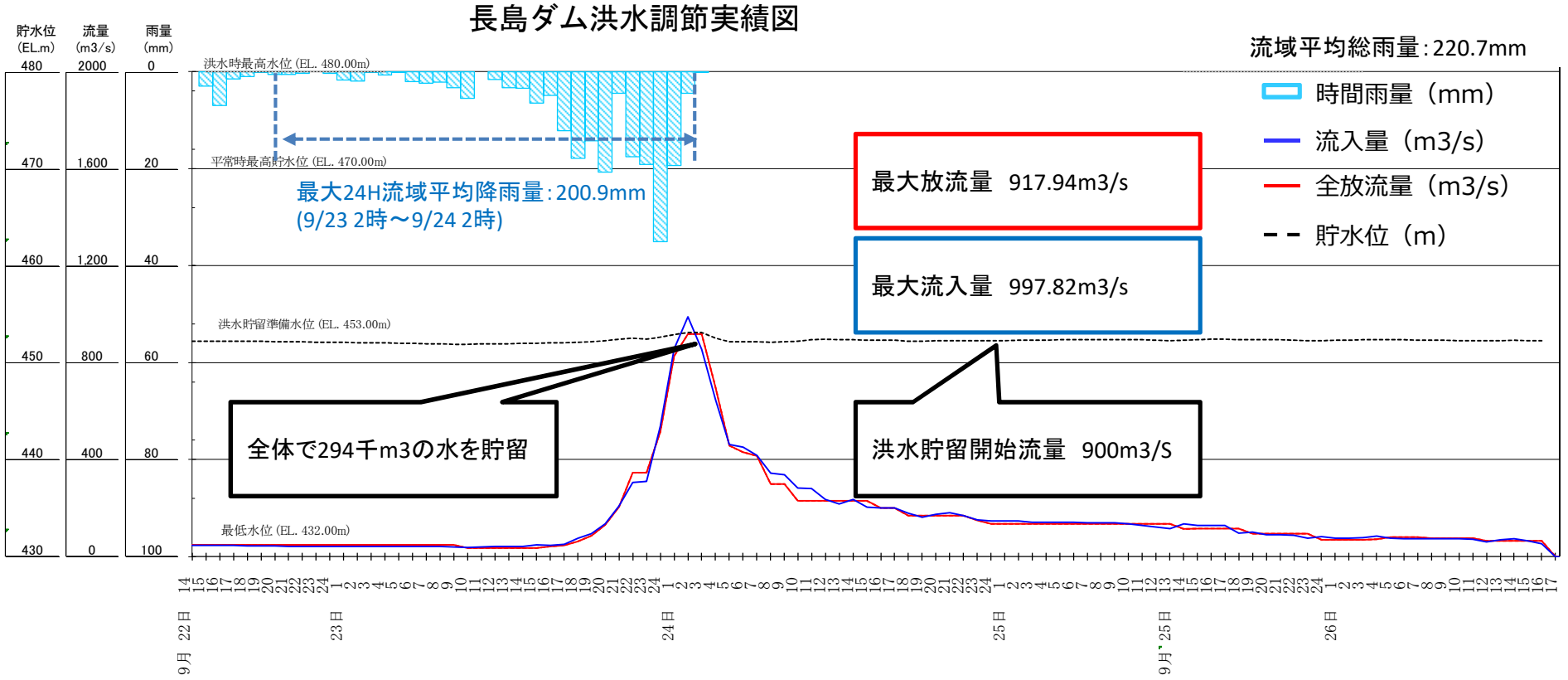
長島ダム防災操作実績

年月日	洪水要因	①最大流入量 (m^3/s)	②最大流入時ダム流下量 (m^3/s)	③調節量〔①－②〕 (m^3/s)	調節率〔③/①〕 (%)
H15. 8. 9	台風10号	1,014	943	71	7
H16.10. 9	台風22号	928	901	27	3
H16.10.20	台風23号	1,239	1,017	222	18
H19. 7.15	台風4号 梅雨前線	1,528	1,114	414	27
H23. 7.20	台風6号	1,185	982	203	17
H23. 9. 3	台風12号	1,612	1,127	485	30
H23. 9.21	台風15号	1,870	912	959	51
H29.10.23	台風21号	960	900	60	6
H30.9.5	台風21号	969	901	68	7
H30.10.1	台風24号	2,079	961	1,118	54
R4.9.24	台風15号	997.82	917.94	79.88	8

令和４年　台風第１５号による出水

●9 月23 日夜のはじめ頃から24 日明け方にかけて、台風第15 号の影響により、静岡県では中部、西部、東部で猛烈な雨が降り、記録的短時間大雨情報が16 回発表されるなど記録的な大雨となりました。
●長島ダムの、流域平均累計雨量は約220.7mm、最大流入量は約998m3/sを記録し、洪水調節[1)]を実施しました。

１）洪水調節：大雨によって急増する水量の一部を一時的にダムに貯め、ダムから放流する量を調節すること



長島ダム流入・放流量

広報・地域連携の取り組み

●長島ダムでは、ダム内部見学会を通年で実施しており、ダムの目的や役割などを幅広く一般の方々に説明しています。また、地域に開かれたダムとして湖面を一般開放し、カヌーなど多くの方々に利用いただいています。
●森と湖に親しむ旬間や、地元のお祭りなどに合わせたイベントも開催しており、地元住民はもとより大井川下流域や静岡県外の方々との交流を促進するなど、地域から愛されるダムとなるべく広報活動に取り組んでいます。
●令和4年度に募集した**長島ダム特命・PR大使**は、長島ダムにゆかりのある著名な方々に特命大使にご就任いただくことで、長島ダムの魅力を積極的にPRしていただきたいと考え、創設しました。著名な方々のそれぞれのご活躍の場に応じて自由に長島ダムをPRしています。

令和６年度来場者数など

・ダム見学会参加者	延べ	503名
・ダムカード配布枚数		7,663枚
・湖面利用者数	延べ	1,500名
・ふれあい館来館者	延べ	11,400名

湖面巡視体験

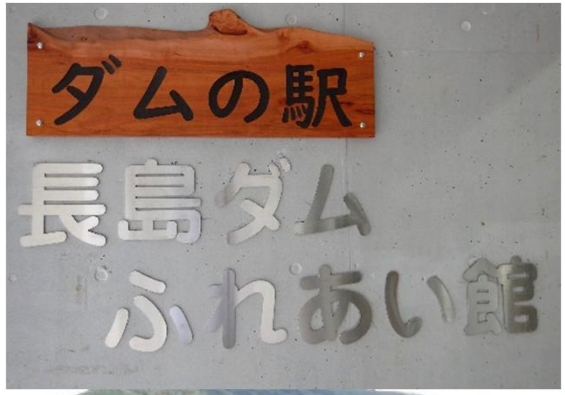
ダム湖利用

森と湖に親しむ旬間イベント
ダム見学

植栽イベント

「ダムの駅」長島ダムふれあい館

●長島ダムは、２００２年に管理運用を開始してから今年度で２３年目を迎えました。
●長島ダムふれあい館は、「ダムの駅」として、令和４年度からリニューアルし、全国のダムカードを展示しております。
また、リモートワーク、ワーケーションの一つとしてダムを見ながら自然の中で仕事できるダム際ワーキングのスペース、フリーWi-Fiが整備され、無料で利用できます。



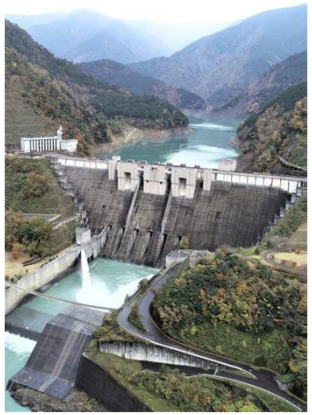
ダムの駅　長島ダムふれあい館

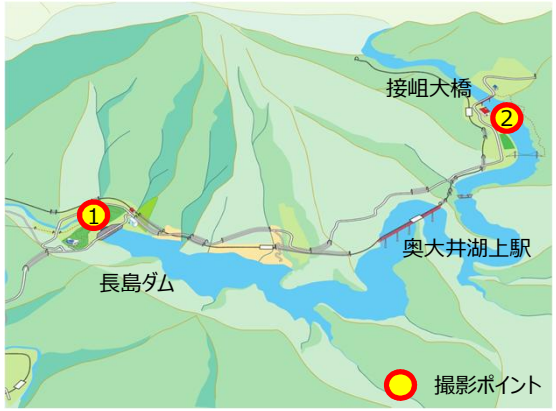
全国ダムカード展（令和5年度に開催）

ダム際ワーキング

堆積土砂の掘削などにICT・ＤＸ技術の活用

●最新の長時間ドローンを用いて、湖面巡視の活用を検討しています。
●ICT建機を用いた、堆砂掘削工事を実施します。
●バックホウのバケットで積み込む土量の重量を計測できるペイロードメータを用いて、過積載を防止します。





ICT施工

①～⑤の段階すべてにおいてICTを全面的に活用する工事
①3次元起工測量
②3次元設計データ作成
③ICT建機による施工
④3次元出来形管理等の施工管理
⑤3次元データの納品

ICT施工

長島ダム　ドローン活用イメージ

長島ダム堰堤改良事業（工事）

■ 長島ダムは、洪水調節容量内に堆砂（1,175千m3（洪水調整容量内堆砂率2.5%）【令和4年度時点】）が発生しており、洪水調節機能に支障を及ぼす恐れがあるため、堆砂対策が緊急の課題となっている。

■ 洪水調節機能を回復するため、洪水調節容量内の堆積土砂を集中的に除去するとともに、掘削・搬出の促進に必要となる一時仮置き場整備や除去した土砂の有効活用として、他事業間との更なる連携（海岸養浜材等）等により、緊急的な堆砂掘削を実施する。

令和7年度配分額（事業費） 2．4億円

＜位置図＞

＜事業計画＞

○事業期間：10年
○令和6年度当初事業費
○令和6年度事業内容：土砂掘削、一時仮置き場整備
　他事業との更なる連携による掘削効率の向上
○除去堆砂量：588千m3
○堆砂除去方法：掘削、浚渫
○堆砂の有効活用方法：他事業との連携
　海岸事業との連携による養浜材への活用
　空港整備（造成）への活用

＜目標設定＞

【中期目標（5年間）】
・堆砂を約370千m3分除去し、洪水調節容量内堆砂量の約30%除去を目標
【最終目標（10年間）】
・堆砂を約588千m3分除去し、洪水調節容量内堆砂量の約50%除去を目標

＜対策概要＞

●一時仮置き場及び進入路整備、他事業との更なる連携による掘削効率の向上
※新規一時仮置き場については、今後検討予定

他事業間連携のスケジュール
・空港造成事業　R4～R8年まで実施予定
　（残り受入れMAX約10万m3）
・海岸養浜事業　R1～R16年まで実施予定
引き続き、運搬費の削減に取り組む。